

HDS029-08

会場:302

時間:5月24日 12:30-12:45

## 第1回「日本の活断層フォトコンテスト」の実施と地震被害軽減上におけるその意義

### The First Photo Contest of Active Faults in Japan and its Implication in Mitigation of Earthquake Disaster

豊蔵 勇<sup>1\*</sup>, 吾妻 崇<sup>2</sup>, 太田 陽子<sup>3</sup>, 岡田 篤正<sup>4</sup>, 桂 雄三<sup>5</sup>, 田近 淳<sup>6</sup>, 中田 高<sup>7</sup>, 原田 明夫<sup>8</sup>, 星野 実<sup>9</sup>, 細矢 卓志<sup>10</sup>, 松田 時彦<sup>11</sup>, 向山 栄<sup>12</sup>, 渡辺 満久<sup>13</sup>

Isamu Toyokura<sup>1\*</sup>, Takashi Azuma<sup>2</sup>, Yoko Ota<sup>3</sup>, Atsumasa Okada<sup>4</sup>, YUZO KATSURA<sup>5</sup>, Jun Tajika<sup>6</sup>, Takashi Nakata<sup>7</sup>, AKIO HARADA<sup>8</sup>, Minoru Hoshino<sup>9</sup>, Takashi Hosoya<sup>10</sup>, Tokihiko Matsuda<sup>11</sup>, Sakae Mukoyama<sup>12</sup>, Mitsuhsa Watanabe<sup>13</sup>

<sup>1</sup> ジオ・とよくら, <sup>2</sup> 産総研 活断層・地震研究センター, <sup>3</sup> 国立台湾大学, <sup>4</sup> 立命館大学, <sup>5</sup> 文化庁, <sup>6</sup> 北海道立総合研究機構 地質研究所, <sup>7</sup> 元広島大学, <sup>8</sup> 東京国立博物館, <sup>9</sup> 国土地理院, <sup>10</sup> 中央開発, <sup>11</sup> 地震予知振興会, <sup>12</sup> 国際航業, <sup>13</sup> 東洋大学

<sup>1</sup> Geotoyokura, <sup>2</sup> AFERC, AIST, <sup>3</sup> National Taiwan Univ., <sup>4</sup> Ritsumeikan Univ., <sup>5</sup> Agency for Cultural Affairs, <sup>6</sup> Geological Survey of Hokkaido, <sup>7</sup> ex-Hiroshima Univ., <sup>8</sup> Tokyo National Museum, <sup>9</sup> GIAJ, <sup>10</sup> Chuou Kaihatsu Corp., <sup>11</sup> ADEP, <sup>12</sup> Kokusai Kogyo Corp., <sup>13</sup> Toyo Univ.

#### まえがき

日本活断層学会では、活断層を知ることにより地球科学と自然災害に対する関心を多くの方に持って頂きたいという思いから「日本の活断層百景」活動を進めている。発表者らは、この活動を企画・運営している活断層百選専門委員会の委員および顧問として作業を進めていく中で、活断層およびそれと関連する変動地形が地震防災上の研究調査対象であるとともに環境形成に大きな役割を果たしていることを認識し、委員会活動の一環として平成22年度に「日本のフォトコンテスト」を企画した。

#### 1. 募集対象

さまざまな視点から撮影された活断層の地形・露頭、活断層に関連する土地利用などの写真を対象とし、今回は日本国内において地上で撮影された写真に限定した。

#### 2. 募集方法と選考方針

日本活断層学会の会員に対しては、フォトコンテストの実施および募集要項をニュースレターと学会ホームページで公表した。また、一般の方に対しても広報活動を積極的に行なった。すなわち、国内の著名なフォトコンテスト広報Webサイト、関連学会のニュースレター、全国の自然科学系博物館、主要研究機関、国交省整備局、調査系企業、地方自治体防災担当部局等にポスターとチラシを郵送あるいはメールを送付し、広報をお願いした。作品募集の広報を平成22年7月1日に開始し、応募締切を平成22年10月15日にした。ポスターの掲示等でご協力いただいた多くの関係機関・各位に、この場をお借りして感謝申し上げる。

フォトコンテストの選考方針として、上述の応募条件に合っているものを対象に選考する方針を立て、日本活断層学会から4名の委員が選出された。委員長として、日本地質学会の惑星地球フォトコンテストの選考委員長である写真家白尾元理氏をお願いした。

#### 3. 応募と選考結果

活断層という学問的にも狭い分野の対象であり、また一般的にも特殊な被写体であったにもかかわらず、36名の応募者（作品数68）があった。応募作品を対象別でみると、「活断層・褶曲露頭」、「変位地形」、「地震断層」、「活断層上の土地利用および地震被害関連」に分類され、内訳の作品数はそれぞれ28, 24, 13, および3であった。

平成22年11月選考委員会を開催し、全応募作品を対象として厳正に審査を行い、入賞作品7点を決定した。入賞作品は、以下のとおりで、会員が4点・非会員3点であった。なお下記の作品の最後の括弧内は撮影対象となった断層の名称である。

- ・最優秀賞：楮原京子（会員）：明治29年の夏の記録（千屋断層）
  - ・優秀賞：岡田篤正（会員）：早朝の根尾谷断層・水鳥断層崖と周辺（根尾谷断層・水鳥（地震）断層）
  - ・優秀賞：山野井 徹（非会員）：遺跡と断層掘削で現れた活断層地形（高瀬山活断層）
  - ・入賞：鈴木康弘（会員）：柵木立（はのきだち）断層と2008年岩手・宮城内陸地震の地震断層（柵木立断層）
  - ・入賞：中田裕一（非会員）：断層崖の茶畑（阿寺断層）
  - ・入賞：渡辺満久（会員）：糸静構造線活断層系と八ヶ岳（釜無山断層群・若宮断層）
  - ・入賞：後藤秀昭（会員）：盆地と山地を限る断層崖と奥羽山地の吾妻山（福島盆地西縁断層帯・台山断層）
- 入賞作品の発表は、当学会の名古屋大学における日本活断層学会秋季学術大会で行い、あわせて展示も行った。さらに、入賞作品には賞状等を贈呈した。

#### 4. フォトコンテストの意義と今後の予定

活断層は数百年から数万年単位で再活動をして大きな地震災害をもたらすことが知られており、この考えは特に阪神・淡路大震災以降広く受け入れられるようになった。活断層を身近にもつ地元自治体および住民は地震防災・減災上の観点から、活断層に関する情報を周知する必要がある。一方、私達を取り巻く自然は活断層の活動によって形成され、自然美をつくるとともに生活環境が活断層と共存し、その恵みを受けている場合が多い。これらの点から、私たちは身近にある活断層の位置やその地形的表現を周知する必要がある。本専門委員会は「フォトコンテスト」や「活断層百景」の活動を通じて活断層の理解、周知に少しでも貢献できることを願っている。

今後、入賞作品と応募作品については「活断層百景」の関連資料や学校教材などへの利用を図るとともに、最近盛んになってきている世界ジオパークへの利用を図ることができるように準備を進めたいと考えている。平成23年度以降も活断層に関する教育・普及活動の一環として活断層フォトコンテストを計画したいので、ご協力のほどお願い申し上げます。

なお、本発表会では活断層百景活動の現状も紹介する予定である。

キーワード: 活断層, 地震被害軽減, フォトコンテスト, 活断層百景, 変動地形, ジオパーク

Keywords: Active fault, mitigation of earthquake disaster, photocontest, active fault 100, tectonic geomorphology, geopark